

- .....安田 純一(西 宮 市)
- 五、永富独嘯庵著書の書誌……宗田 一(京 都 市)
- 六、「処士独嘯庵墓」再建についての経過報告  
.....岡村 芳樹(大 阪 市)
- 七、一七世紀オランダ絵画の中の萎黄病  
.....石田 純郎(新見女子短大)
- 八、五十二病方に見られる治療法  
.....山本 徳子(横 浜 市 大)
- 九、海上随鷗の京都の塾について  
.....森 納(鳥 取 県)
- 一〇、芸備島嶼部の医学史……江川 義雄(廿日市市)
- 一一、小児体温計の供覧……岩治 勇一(大 野 市)
- 一二、絵葉書にみる実費診療所 寺畑 喜朔(金 沢 医 大)
- 一三、第三高等中学校医学部における精神病学の講義  
.....正橋 剛二(呉羽神経  
.....サナトリウム)
- 一四、マンスフェルト口授緒方洪哉弁訳  
.....「内科察病三法」について  
.....中山 沃(西 宮 市)
- 一五、エルメレンス碑建立の事情と保存について  
.....松田 武(京 都 市)
- 一六、耳飾りの流行と医学……貝塚 恍(大 津 市)
- 一七、明治期茸中毒史と猪子吉人  
.....奥沢 康正(京 都 市)  
.....藤田 俊夫(京 都 市)

- 一六、渡部鼎の父、思齋……石原 理年(京 都 大 学)
- 一六、京都府立医学校図書館保管ラベルのある  
蔵書について……三宅 宗純(京 都 市)
- 「三木先生を偲んで」  
山中太木・宗田 一・長田岳士・三木 謙

特別講演「人体解剖のルネサンス」

大阪大学名誉教授 藤田 尚男

閉会のことば……杉立 義一

(長門谷洋治)

例会抄録

長山泰政——戦前に院外治療を提唱した精神科医——

岡 田 靖 雄

長山泰政(一八九三・一一・四—一九八六・一一・六)は、主として大阪府立中宮病院ではたらいていた精神科医である。このたびわたしたちの精神科医療史研究会が中心になって長山泰政先生著作集を編集しているので、長山の生涯を概観し、またその業績の歴史的な位置づけをこころみたい。

わが国における精神科作業治療の紹介は緒方洪庵『扶氏經験遺訓』にはじまる。ヨンケル、ローレツもその重要性を強調し、一九〇〇年までも作業治療の散発的試みはされてい

た。院外治療の紹介もされた。呉秀三が巢鴨病院院長となつてから、作業治療は体系的なものとなつた。森田正馬もそれにたずさわつた一人で、彼の名を冠された治療法の源の一つはこのときの経験であつた。一九〇〇年の精神病者監護法は入院は監禁であるとしていたが、一九一九年の精神病院法によつて、監禁的でない入院治療が公認され、作業治療にもあつたらしい地帯がひらかれた。同年に巢鴨から移転した松沢病院で加藤普佐次郎は、みずからもモッコをかつて作業治療にあつた。加藤は作業治療とともに開放治療を強調し、またうたい・おどつて患者をたのしませた。

加藤の仕事はかれの学位論文となつたが、同僚のなかには「土方医者」とかれをさげすむ人のほうがおほかつた。他院での作業治療は、内職的なものや農耕にとどまつていた。

長山は一九一九年に府立大阪医科大学を卒業し、神経病理面の仕事によつて学位をえ、助教授候補であつた。一九二九年にドイツに留学し、ミュンヘンでシピールマイエルについた。ところが同年九月ハンブルクのワイガント教授主宰の講習会でジモンの作業治療、コルプの院外保護の講義をきくにおよんで、神経病理学をすてた。母校の和田教授は長山の縁つづぎの人だったが、和田は長山にひどくいかつた。

一九三〇年一二月に帰国してから長山は中宮病院医員(のち医長)として、作業治療にとりくむとともに、一九三一年からヨーロッパの精神科作業治療および院外治療について精力的な紹介をはじめた。それだけでなく、院外保護の試みもした。

といつても、作業治療が制度として確立されていた松沢病院とちがつて中宮病院では、それにたずさわる従業員もわずかで、長山の仕事はたいへんにくるしいものであつた。松沢病院で加藤のあとをうけついで菅修とたまにあつてかたりあうことは、七月七日に二星がめぐりあう思いであつたとつたえられる。院外治療については松沢病院副院長であつた齋藤玉男(冷泉禎太郎名義のものもある)も紹介しはじめた。

長山は不遇のうちに一九四九年に中宮病院を退職し、わすれられた存在になつていた。

精神疾患患者の院外治療が重視されてきている現在、はやすぎたこの巨人の足跡をたどりなおしたい。

(平成五年一月例会)

#### 金沢貞顕文書の医史学的研究

樋口 誠太郎

##### 一、はじめに

金沢貞顕(弘安元年・一七七八〜元弘三年・一三三三)は、金沢北条氏の四代目として、称名寺や金沢文庫を充実させる上で功績のあつた人物であると共に、すぐれた文人武将であつた。

しかし、鎌倉幕府の滅亡にあつては、執権北条高時一族と共に鎌倉葛西谷の東勝寺で自刃して果てた。